

中学校区で、小・中学校が互いの学力向上特配（A教諭、B教諭）を活用している例（免許外指導解消、専門的教科指導）

校名	桐生市立境野小学校									桐生市立境野中学校					
学級数	学年	1	2	3	4	5	6	特支	計	学年	1	2	3	特支	計
	学級数	3	2	3	2	3	2	2	17	学級数	3	2	2	1	8
特配教員活用状況	A教諭（境野小置籍 週18.5時間）									A教諭（境野中置籍 週18.5時間）					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎週月・水・金曜日に小学校で一日勤務</li> <li>○5・6年家庭科（週2時間×5学級＝10時間）担当</li> <li>○5年図工科（週1.5時間×1学級＝1.5時間）担当</li> <li>○クラブ・委員会活動1時間担当</li> </ul>									<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎週火・木曜日に中学校で一日勤務（小学校へ出勤後）</li> <li>○1～3年技術・家庭科（家庭分野 6時間）担当（1・2年 週1時間×5学級 3年週1時間）</li> </ul>					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担任外</li> <li>○「放課後学習教室」担当（毎週金曜の放課後1時間）</li> </ul>														
	B教諭（境野中置籍 週17時間）									B教諭（境野中置籍 週17時間）					
成果と課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日境野小で勤務</li> <li>○6年算数少人数指導（上位群 毎日1時間＝週5時間）担当 *活用問題に取り組ませる。</li> <li>○中・低位群は6年担任が少人数に分けて指導に当たる。 *基本的な問題を中心にきめ細かく指導</li> </ul>									<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日境野中で勤務（出勤も）</li> <li>○2年数学（週3時間×2学級＝6時間）担当</li> <li>○3年数学（週4時間×1学級＝4時間）担当</li> <li>○2年総合（週2時間）担当</li> <li>○2学年学年主任</li> </ul>					
	C教諭（境野中置籍 週17時間）									C教諭（境野中置籍 週17時間）					
	<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎週火・木曜日に境野小で勤務</li> <li>○5年理科（週3時間×1学級＝3時間）担当</li> </ul>									<ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日境野中で勤務（出勤も）</li> <li>○3年理科（週4時間×2学級＝8時間）担当</li> <li>○特支学級理科（週4時間×1学級＝4時間）担当</li> <li>○3年総合（週2時間）担当</li> <li>○3学年学年主任</li> </ul>					
<ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校教員への理科教育の指導助言、教材の提供</li> </ul>									<ul style="list-style-type: none"> <li>○3学年学年主任</li> </ul>						
成果と課題	<p>① 兼務教員を活用した教科指導の連携による学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○特に算数における全国学力調査の正答数の上昇</li> <li>●最低位児童には、個別指導が必要と思われる。</li> </ul> <p>② 小中学校の9年間を見通した教育課程の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校高学年と中学校との異校種接続部分に関して成果があった。</li> <li>●9年間については今後の新教育課程編成時に考慮していく。</li> </ul> <p>③ 中一ギャップ解消に向けた中学校への円滑な接続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学校に入学しても「知っている先生がいる」ということが安心感につながっているようである。</li> <li>●教員の異動。</li> </ul> <p>④ 小中のつながりを考慮した校内研修、生徒指導での連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○公開授業の参観等による、つながりを意識した授業構想。</li> <li>●会議等開催時の日程調整。</li> </ul> <p>⑤ 兼務教員の活用による学校経営上の効果の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○児童生徒理解の促進、異校種校への理解促進。</li> <li>●各校の学校行事等による対応の調整の困難性。</li> </ul>									<p>① 兼務教員を活用した教科指導の連携による学力向上</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の数学や理科の指導では、指導の連続性を意識した指導につながった。1年数学担当教諭と兼務教諭が情報共有することで、生徒の実態に合った指導に結びつけることができた。</li> <li>○家庭科では、免許所有の教諭が指導に当たることができ、専門性のある授業、安全面に配慮した授業を行うことができた。</li> </ul> <p>② 小中学校の9年間を見通した教育課程の作成</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○生徒の実態を考慮した数学、理科、家庭科の教育課程の作成。</li> </ul> <p>③ 中一ギャップ解消に向けた中学校への円滑な接続</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小学校の「学習合い言葉」、「自主勉強の仕方」等を参考にした取組の充実。</li> </ul> <p>④ 小中のつながりを考慮した校内研修、生徒指導での連携</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○小中学校の隣接立地のよさを生かし、日常的な参観が可能。</li> </ul> <p>⑤ 兼務教員の活用による学校経営上の効果の検証</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○免許外指導の解消による専門的な学習指導が実施でき、生徒だけでなく保護者にも安心感と与えることができた。</li> <li>●兼務教員の時間割の編成への制限。</li> </ul>					